



行橋市立泉中学校

学校通信

令和元年 7月1日
第16号

「校訓」

- ◆ 自主
- ◆ 責任
- ◆ 協力



弁論大会 お疲れ様でした!!

去る6月28日(金)、審査員である来賓の皆さん、そして保護者の皆さんが見守る中、校内弁論大会が行われました。定期考査もあり、十分な練習時間が取れない中での開催となりましたが、どの弁士も自分の思いを語ってくれました。また、弁論を聴く生徒の態度もすばらしく、メリハリのある弁論大会を創り上げてくれました。ほとんどの弁論の内容は、皆さんにとって、身近な内容であり、自分自身の心を耕すことはできましたか。そして、今後の生活を見直していこうという気づきがありましたか。

審査の結果、最優秀賞に3年4組の石井 梨央奈さん(演題「心に残る言葉」)、優秀賞に3年3組の加藤 小鈴さん(演題「愛情の大切さ」と2年3組の中村 優希さん(演題)「夢への扉」が輝きました。最優秀賞に輝いた石井さんは泉中学校の代表として、7月10日(水)に「苅田中央公民館」で行われる郡市弁論大会に出場します。行橋・京都地区の13中学校の代表弁士が参加する大会です。さらに練習を重ね、多くの聴衆の心に響く弁論をしてくれることを期待しています。生徒会役員・生活委員会の皆さん、運営ありがとうございました。以下、12名の弁士の皆さんの弁論の内容を簡単に紹介します。

<1年4組 高本 柁平「アレルギーとの付き合い」> (敬称略) ※弁論順

生後アレルギー体質であることがわかり、食べ物が限られる中で生きることが奇跡であった乳児期のこと、そして、保育園では皆と同じものを食べたかったという経験を語ってくれました。何らかのアレルギーを持っている人は二人に一人いるが、正しいアレルギーの知識を持っている人は少ないという実態があり、アレルギーが引き金となるいじめをなくしていくためにもアレルギーについての正しい知識を持つことが大切であることを語ってくれました。

<2年1組 本松 和奏「自分で考えることの大切さ」>

人に頼る自分、だれかがしてくれると思う自分を小学校3年生の時の経験や家族に頼る自分自身の経験を振り返り、自分が成長していくためには、自分でやってみて失敗することが大切であることを語ってくれました。また、スマホを使えば自分で考えることなく、すぐに答が出る時代に暮らしており、自分の考えに責任を持てるように自分で考え、自分の意見をしっかり持てる人になりたいと語ってくれました。

<1年3組 工藤 碧「コペルニクスのように」>

いじめがもとで将来の夢や未来が奪われたり、悲しんだりしている人がいる状況を改善していくために、「君たちはどう生きるのか」という漫画の主人公であるコペル君の姿を通して自分の思いを語ってくれました。自分を中心にして自分の回りが動いている天動説的な考え方ではなく、何が正しいのかを考えたり、いじめをなくしていくために、他人を思いやる態度などについてしっかり考えたりすることの大切さを訴えてくれました。

<3年2組 長井 春樹「意思表示の大切さ」>

小学校から続けているラグビーでは、試合中に自分たちで考えを出し合い、問題を解決していくことの大切さ、小学校6年次の討論の授業では積極的に意見を出すことの大切さを学んだこと、そして将来の自分を見通し、自分の考えを持ち、アピールすることが成功につながり、さらには豊かで楽しい人生につながることを語ってくれました。また、祖母とのやりとりの中で自分の思いを伝えてラグビーを続けている現在の自分の姿を見つめ、分の思いを伝えるために一歩踏み出す勇気をもつことの素晴らしさを訴えてくれました。

<1年1組 井無田 晴世「環境のために私たちが出来ること」>

中国のゴミ問題に触れ、日本における一人一日当たりのゴミ排出量の客観的なデータをもとに自分たちが出すゴミの処理についての問題を提起してくれました。ゴミを減らすには一人一人が取り組もうとする意識が大切であり、中でもリデュース・リユース・リサイクルの順に取り組むことの大切さ、身の回りにはエコできることがたくさんあり、私たちの力で日本、そして地球を守っていくことの大切さを語ってくれました。

<1年2組 岡部 優里「不注意による事故」>

母子2人が亡くなった高齢者による交通事故を引き合いに出し、年々高齢者による交通事故が増加しているデータを紹介し、高齢者の運転免許証の返納についての問題を提起してくれました。年々返納率は高まっているものの、返納しない理由として返納する必要性を感じていないこと・面倒くさい・身分証明証として必要であること・買い物難民になることなどをあげ、高齢者が安心して生活できる社会やサービスをつくっていくことが免許返納につながることを訴えてくれました。

<3年3組 加藤 小鈴「愛情の大切さ」>

「愛情を受けなかった赤ちゃんはどうなるのか」という複数の実験データをもとに愛情を考える機会を提供してくれました。日本の社会に目を向けると、児童虐待で亡くなっている子どもの数は、年々増加している状況が見られ、また、人に対して「うざい、きもい」という言葉を使ったり、困っている人を無視したりする行動が見られる中、相手を思いやる行動をすることが愛情一杯の社会を創っていくことにつながることを語ってくれました。

<3年1組 志柿 愛海「LGBTについて」>

性的少数者に対する偏見に対してどのような社会を創っていくことが必要なのかについての問題を提起してくれました。世界に目を向けると、性的少数者が法的に認められている国もあるが、日本は何も決まっていない状況にあり、その結果、人権侵害に至ることもあり、教育による正しい知識をもって性的少数者を理解することが大切であることを訴えてくれました。

<2年2組 吉原 春平「こんな大人になりたい」>

朝早くから夜遅くまで働いている両親の姿を日々の生活を通して観察し、自分たちを愛情いっぱい育ててくれる両親の姿にあこがれを抱いたことを語ってくれました。このような両親に大人になって恩返しをするために、「一日を大切に」という父の言葉を胸に、今できることを精一杯頑張ること、そして、子どものことを大切に作る親になることを語ってくれました。

裏面に続く→

< 3年4組 石井 梨央奈 「心に残る言葉」 >

小学校6年生の時に転校してきた折、不安な気持ちはあったが、何もしなかったことを後悔したり、ネガティブな自分に怒りを覚えたり、前向きに踏み出せなかったりした自分の姿を振り返ってくれました。そして、「昔、私は自分のした事について後悔したことはなかった。しなかった事についてのみ、いつも後悔を感じていた」という自分の好きな言葉が自分の行動を後押ししてくれたことを語ってくれました。人を行動へと導く力や思いのこもった多くの心に残る言葉を見つけ、行動につなげていくことの大切さを語ってくれました。

< 2年3組 中村 優希 「夢への扉」 >

母を支えようとする自分の無力さ、そして病気で苦しむ人を一人でも多く助けたいという思いから看護師になる夢を抱いた自分。そのために、専門の学校に進学し、知識を身につけるために、また、看護師に求められる人と接する力を身につけるために、あきらめることなく、ポジティブに夢に近づく一歩を踏み出すことの大切さを語ってくれました。また、時間が刻々と過ぎ去る中、未来について考えることの大切さも訴えてくれました。

< 2年4組 津森 龍人 「お金の価値」 >

お金は等価交換の道具であるが、汚職や税金の無駄使いなどお金に関わる様々な問題が世の中にはあること、友達と持ち合わせのお金で二人分のお菓子を買った体験を通して、ただお菓子を食べることだけでなく、楽しい時間を共有できたこと、そしてより仲良くなれたことを語ってくれました。お金は使い方次第でよいものにも悪いものにもなるという側面があり、お金を有効に使うことの大切さを訴えてくれました。